

日本海を目指す縦走 Part 1 槍→針ノ木峠

◆日程 2022年7月15日(金)～19日(火)

◆メンバー L: 0M

あれはもう20年以上も前のこと。槍から日本海(親不知)を1泊13日で縦走した。いつかまたやりたい。しかし、体力も時間もない。「分割してやってみようか」と思いついた。

7月15日(金)曇時々晴れ→雨

松本まで夜行バスで駅寝、始バスで上高地。小雨ばらつき人もまばら。夏山シーズン直前の平日は、徳澤園も横尾もテントがなくてがらんとしていた。高度を稼ぐにつれて雨足が強まる。ぬれているのが汗なのか雨なのか。殺生ヒュッテに着いたときには寒かった。

CT: 上高地 7:30-馬場平 12:30-天狗分岐 14:15-殺生ヒュッテ 16:20

7月16日(土)曇時々晴れ→雨

ガスの中、日の出前に出発。肩の小屋で明るくなるが誰も槍に登らない。「展望ないかもしれないけど、先の予定もあるし」と思って登る。上がってみたら展望が開け、独占。

西鎌尾根へ。ガスが晴れ、北鎌尾根がよく見える。高山植物もいい時期だ。左俣岳の手前で子熊が大慌てで正面斜面を登っていった。こんな高いところにいるとは。母熊は?

がらんとした双六小屋の水場でがぶ飲み。山の水は文句なしにうまい。「これがしたかった!」と思う。双六池が美しい。水を見ると心が和む。中道コースで三俣蓮華岳に登頂。

雨が本降りになる直前に三俣山荘に幕営。小屋では小学生が受付をしていた。どこから入山したのかな。トイレは小屋のを使って良いと言うし、18～21時までには小屋の食堂にいてよいとのこと。テント客にも良心的だ。ただ、テン場から小屋が遠い。

CT: 殺生ヒュッテ 4:20-槍ヶ岳山荘 5:10-槍ヶ岳 5:40-山荘 6:10-樺沢岳
10:35-双六小屋 11:00-三俣蓮華岳 13:50-三俣山荘 14:30

7月17日(日)曇時々晴れ→雨

曇天。鷲羽岳を巻くコースに行くか迷うが、鷲羽は未踏だったので行くことにする。案の定、山頂は視界ゼロ。でも満足だった。特徴的な山容のワリモ岳を通過。お花畑を通過して水晶小屋へ。七倉から水晶岳を日帰りでの往復はトレランのメジャーなコースだそうだ。

同小屋から赤茶けた崩れ気味のルートを下り、白い砂礫のNG五郎岳へ。NG五郎小屋も閑散としている。かつてはテン場があったが廃止され、水場もなくなったとのことだ。

裏銀座らしい白く明るい風景の中を歩く。雷鳥を見た。三ツ岳を超え、烏帽子小屋の手前のヒョウタン池のほわりにもテントサイト。雰囲気良いが虫が多そう。小屋で余裕ぶっこいて格安の越冬ビールを飲んでいたら雨。あわてて池と小屋の間くらいに幕営。

CT: 三俣山荘 4:00-鷲羽岳 5:50-水晶小屋 7:30-真砂岳分岐 10:10-NG五郎岳
11:05-NG五郎小屋 11:30-烏帽子小屋 14:25

7月18日(月)曇

夜明け前に出発。樹林帯を進む。熊鈴は物寂しくて好きでないが使う。特徴的な山容の烏帽子岳に登頂。その後、烏帽子田圃と呼ばれる地帯は池と雪渓が流水のようで美しく、畦道のようなルートを歩く。その後、突然南アルプスが出張してきたかのような木の枝や根が干渉してくる樹林帯に突入、なかなか大変だ。それを突き抜けて砂礫の南沢岳に登頂。南沢岳の手前で少しうろろした。コマクサが惜しげもなく咲く。

南沢岳から不動岳は崩れた砂礫地帯で、一部はアリ地獄のように足が砂礫に埋まる。不動岳にはサルが数匹いた。

不動岳から船窪岳へは右の不動沢側が断崖、しかも崩れやすい地質。かつてはもっときわどい部分を歩いた記憶だが（よく見るとマーキングが残っている）、今は左側の森林部分が切り開かれている。ただ、アップダウンもあって長くて、視界も開けず、虫も多くて、うんざりした。船窪岳は2459m ピークかと思っていたらそうでなかったのにもぐったり。

船窪乗越を越えて船窪小屋のテント場に到着。ここはハシゴを使って行くきわどい水場があるとのことだったが、水場へのルート工作はやめてしまったようだ。ハシゴがないととても行かれそうにない。テン場から小屋は往復小一時間（テン場代は500円と安い）。

CT：烏帽子小屋 4:00-烏帽子岳 5:15-南沢岳 7:00 - 不動岳 9:00 - 船窪岳 13:30-
船窪乗越 13:50-船窪小屋幕営地 15:00

7月19日（火）雨時々曇

朝起きたら雨。しかし行くと決めていた。日の出前に出発。やせ尾根だというのがとにかく足元に注意して暗い中を進む。せめて雨がやんでくれれば、せめて明るくなってくれれば、と思った。暗闇の七倉岳を通過。明るくなって湿っぽいガスの中、北葛岳に到着。

そこから北葛乗越まで大きく下る。そして登り返し。登り返しは思いのほかに岩稜帯で雨の中を3点確保で登るのはなかなか骨が折れる。岩を滴る雨水を飲んだ。靴の中まで濡れて、さながら沢登りの気分である。まあ、単調な登りよりもこっちの方がいいか。

だいぶ登ると前方にガスに霞んで小石を積んだような丸い山が見えて、それが蓮華岳だ。コマクサが延々と咲いていた。濡れた体に風が当たって冷えた。SDさんが低体温症になった話をしていたのを思い出し、そうなる前に何としても着替えようと思った。針の木小屋は「今日はお客がないから」と言って軒先で着替えさせてくれた。

事前情報を入手せずに針ノ木雪渓を下った。上部は雪渓に乗らずピンクテープに従って雪渓を渡るくらいだが、中部は雪渓の上を歩かないと道がない。慣れないとアイゼンなしで歩くのはむづかしいし、前後にだれもいなかったので、このまま雪渓の上を歩いて行っているのか悩んだ。雪面をよく見ると、歩いていて滑った跡やトレースがある。それに従うと楽しく下れた。しかし下部は確実に雪渓の上を歩くのをやめなくてはならない。そうしないと、ぱっくりと雪渓に穴が開いていて、その下をゴウゴウと水が流れているのに飲み込まれかねない。小屋でちょっとでも聞いて来ればよかった。ピンクテープのつけ方も趣旨がわかりにくいということもある。

雪渓を降りた後、大沢小屋を通過し、そこから扇沢までは針ノ木自然歩道というらしいが、これがアップダウンも多いし、長い。ようやく扇沢に着いた。

CT：船窪小屋幕営地 3:20-七倉岳 3:50-北葛岳 5:50-北葛乗越 6:50-蓮華岳 8:40-
針ノ木峠 9:20-大沢小屋 13:00-扇沢 14:25

感想、その他

- ・西鎌尾根で子熊に会ったのは驚いた。どこにでもいるんだなと思った。
- ・烏帽子～針ノ木は北アルプスでかなり穴場ルートだと思う。
- ・テン場や水場がなくなっていることが多い。古い記憶に頼ると危ない。
- ・夏の軽量化でも雨を想定して薄手のシュラフは持って行った方がよい。
- ・ガス缶1としたがこれくらいの日程であれば暖房しても1缶も使い切らない。
- ・クールマックスみたいな素材が濡れるとすごく寒い。連泊にはウール生地が安心。
- ・雪渓を下るのは楽しい。事前に小屋とかで状況を聞いておけば安心。
- ・ぜんぜんコースタイム通りに歩けなかった。現実を抗わずに受け容れたい。

（記：OM）